

## 非結核性抗酸菌陽性液体培地を用いた抗酸菌染色陽性対照作製

◎吉田 健登<sup>1)</sup>、村上 侑希<sup>1)</sup>、中島 慶子<sup>1)</sup>、平口 恵里香<sup>1)</sup>、金谷 直哉<sup>1)</sup>、上原 俊貴<sup>1)</sup>、川嶋 大輔<sup>1)</sup>、井上 佳奈子<sup>1)</sup>  
飯塚病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院の病理検査室では、Ziehl-Neelsen 染色（以下、抗酸菌染色）を行う際、精度管理として陽性対照を同時に染めて染色性の評価を行っている。これまでは、過去の剖検検体や手術材料から抗酸菌陽性と診断された組織の残余を用いて陽性対照としていたが、作製した陽性対照内に菌量が少ないことも多く、染色性の評価を行う際に多大な時間を要していた。またここ数年は、抗酸菌陽性と診断される症例が少ないこともあり、陽性対照となり得る検体の検索に病理医、技師ともに苦慮していた。これらの問題点を解決するために、非結核性抗酸菌陽性となった液体培地を用いて陽性対照作製の検討を行った。

【材料および方法】MGIT 法（日本 BD 株式会社）にて非結核性抗酸菌陽性となった液体培地を使用した。感染防止の観点から固定には 20%ホルマリンを用い、アルギン酸ナトリウム法（以下、AN 法）にてパラフィンブロック作製を行った。今回の検討法を以下に示す。

- ①液体培地に 20%ホルマリン等量混合（2week）
- ②遠心分離（3500rpm:3 分）後上清を破棄

- ③蒸留水を加え洗浄
- ④③の遠心分離（3500rpm:3 分）後上清を破棄
- ⑤④に 1%アルギン酸ナトリウムを 0.3~0.5mL 加え混和
- ⑥1M 塩化カルシウム溶液をスピッツに入れ⑤を滴下
- ⑦パラフィンブロックを作製し 3~5 $\mu$ m で薄切後、抗酸菌染色
- ⑧抗酸菌染色の染色性と菌量について評価を実施

【結果】AN 法は、これまでの陽性対照と同等の染色性であり、菌量は多く評価が容易となった。

【まとめ】今回の結果から、染色性の評価と陽性対照の検索に要していた時間を削減することが出来、病理医および技師ともに業務負担軽減となった。また、微生物検査室において、非結核性抗酸菌は 1 ヶ月に数件検出される為、確保に苦慮することは無くなった。今後の課題として、陽性対照の保管期間などを定めていないため、日々染色性を確認しながら有効期間を決めていきたい。

連絡先:0948-22-3800（内線 2515）